

S.U.N.

No.37
2025 August

「東京2025デフリンピック」 陸上競技日本代表に仙台大学関係者が5人内定



Catch the future

キャンパスインフォメーション

夢中人 | 研究室より | 同窓会情報

表紙のひと デフリンピックのシンボルマークを手話で表現する5人の日本代表内定者



仙台大学

世界王者「琢磨先輩」の背中を追って、夢舞台「デフリンピック」での活躍をめざす！

走る喜びに支えられ本学に集った6人のデフ陸上選手たち。その視線の先には金メダリスト佐々木琢磨先輩の姿がある。「東京2025デフリンピック」に向け、練習により一層熱が入る選手たちを紹介する。



- ①陸上を始めた時期ときっかけ
- ②本学を選んだ理由
- ③デフリンピックへの意気込み
- ④好きなこと・好きな食べ物・好きな言葉
- ⑤目標・夢
- ⑥陸上好きなキミへのメッセージ



**琢磨さんが教えてくれた夢の大切さ
全員でゴールめざして駆け抜けたい！**
全国聾学校体育大会100m優勝
2024年全国障害者スポーツ大会100m優勝ほか

はせがわ しょうた
長谷川 翔大 選手 / 内定種目 4×100mリレー
 健康福祉学科4年 宮城県立聴覚支援学校高等部出身

- ①小4の時リレーで負けた悔しさから速くなりたくて陸上を始めました。中3の時、琢磨さんに会い、「デフリンピック」で世界のトップアスリートが全力で戦う姿を想像し、「自分もその場に立ちたい」という夢を持ち続けていました。
- ②一つ目は、憧れの琢磨さんと練習したり、指導を受けられること。二つ目は「体育の先生になりたい」という目標を実現できる環境。デフリンピックへの挑戦の夢と体育教員になる目標を、同時に追いかける環境が仙台大にあると感じたので。
- ③今回出場するリレーはチーム全員の力と信頼が試される種目。バトンは仲間への思い、時間、努力、「命を繋ぐ」もの。しっかり受け取り、責任を持って次へ繋ぐ。最後までチーム全員でゴールまで駆け抜けるのが目標。
- ④牧場巡り・身体を動かすこと / カレー(誕生日がカレーの日) / 「継続は力なり」
- ⑤デフリンピックでメダル獲得・ろう学校の体育教員
- ⑥日本代表に内定できたのは、経験豊富な指導者や同じ目標を持つ仲間との出会いがあったからこそ。本気で夢を追いかけていきたい人にとって、仙台大は想いをカタチにできる場所です。



**質の高い練習と環境が本学の魅力
チーム全員の想いを背負って全力で挑む**
全国聾学校陸上競技大会200m優勝
2024日本デフ陸上競技選手権大会400mハードル優勝ほか

おばら そら
小原 奏楽 選手 / 内定種目 400mハードル・4×400mリレー
 体育学科3年 宮城県立聴覚支援学校高等部出身

- ①中学の時、好きなバスケが上達するよう身体能力を高めるために陸上を始めました。
- ②スポーツトレーナーの資格を取るためと競技力を高め、戦績を残すために良い環境だと思ったので。全国大会を目指し練習を積み重ねましたが、ケガが多いこともあり目標達成できず部活を引退しました。琢磨さんや長谷川翔大さんの活躍を知り、「今度こそ結果を残したい!」と思い、入学しました。
- ③今回選ばれなかった選手の悔しい気持ちも背負って、試合に臨みたい。
- ④体を動かすこと / ネグトロ井 / 「継続は力なり」
- ⑤400Hとマイルリレーでメダルを獲得すること。
- ⑥本学関係者から5名もの選手が出場します。一つのチームからこれだけの人数が世界大会に出場することはめったになく、それだけ本学の練習の質がよいという証だと思えます。東京開催なので、多くの方に観戦してもらえたら嬉しいです。



**日本代表に選ばれた誇りを胸に
金メダルをとって、恩返ししたい!**
2024年日本デフ陸上競技100m・200m優勝
2025デフリンピック日本代表選手選考会100m・200m優勝

なまいざわ さえ
生井澤 彩瑛 選手 / 内定種目 100m・200m・4×100mリレー・4×400mリレー
 体育学科1年 茨城・鹿島学園高校出身

- ①走るのが大好きで、小3の時に陸上クラブで体験したことがきっかけです。
- ②強化合宿で琢磨さんと出会い、初めて仙台大のことを知りました。陸上競技を行う上で重要な充実した環境が整っていること、デフ選手の皆さんと一緒に練習できる環境に魅力を感じました。
- ③世界の舞台で戦える機会を与えて頂いたことを誇りに思っています。日本代表としての自覚と責任を持ち4冠目標に日々練習に取り組んでいます。
- ④カメラ。特に陸上選手を撮ること。/ オムライス。大会が終わったらオムライスめくりしたい。/ 「気合と根性」。大きな大会前は常に頭にいれて練習します。
- ⑤金メダルを獲り、支えてくれた方々に恩返ししたい。将来は陸上クラブチームで子どもたちに陸上の楽しさを教えたい。
- ⑥デフ陸上に必要なものが全てあり、大学全体が聴覚障害に理解があるので練習しやすい環境です。授業でもサポートがあり安心して勉強できますよ。



**大きかった琢磨さんの存在
スキーと陸上でメダルを目指したい**
第1回世界デフユース400m2位・800m8位
2025デフリンピック日本代表選考会400mハードル2位・400m4位ほか

むらた ゆうすけ
村田 悠祐 選手 / 内定種目 400mハードル・4×400mリレー
 体育学科3年 東京都立中央ろう学校出身

- ①スキーのシーズンオフにトレーニングとして高校の部活に参加したこと。
- ②「情報保障」※がしっかりしていて、大好きな陸上に全力で打ち込める環境があったこと。世界一の琢磨さんの存在。「私も世界一になれるかも」と思わせてくれたから。
- ③デフリンピックは特別な舞台であり、出場するだけでも大きな価値があり、メダルはさらに上です。夏季と冬季両方制覇する選手は少ないため、私はスキーと陸上でメダルを目指して全力で頑張ります。
- ④身体を動かすこと/ 寿司、ピザ、牛タン / 「It's a piece of cake(めっちゃ、カンタン!)」
- ⑤デフリンピックで世界一になること。
- ⑥「世界を目指したい」「自分の限界に挑戦したい」と思う人には、仙台大がその一歩を後押ししてくれるはず!

※「情報保障」とは、障がいのある人が情報を入手する際に必要なサポートを提供し、情報にアクセスできる状態を確保することを指す。



**レベルアップと将来の夢を叶えるため入学
東京大会で4種目優勝が目標**
全国聾学校陸上競技大会100mと200mで2冠
デフ日本ユース選手権100mと200mで2冠達成ほか

かめ ゆう
亀 佑海 選手 / 専門種目 100m・200m
 体育学科1年 宮城県立聴覚支援学校高等部出身

- ①小学生の時、運動会の50m走で1位を取り、足が速いと言われて。
- ②世界デフ大会への出場する近道だと思ったので。仙台大にデフチームがあったので一緒に練習して、リレーメンバーになりたいと思いました。高等部で指導を受けた先生の影響で、将来陸上のコーチになりたいという目標もあったので、2つの目標を叶えられる環境と思い、入学しました。
- ③ー
- ④漫画・アニメ・旅行 / みそねぎラーメン・肉 / 「オレは今なんだよ」「人の夢は終わらねえ」(マンガ「SLAMDUNK」のセリフ)
- ⑤4冠優勝出来るように頑張ります。
- ⑥陸上でも、勉強でも自分のめざすものがあるなら、自分の考えを伝えたり、自分らしさを出していくことが大事だと思えます。



**在学中10秒台を出すのが目標
いろんな経験をして成長したい!**

かのの そら
菅野 空 選手 / 専門種目 100m・200m
 体育学科1年 福島県立聴覚支援学校高等部出身

- ①中学生の時、陸上部の先輩に誘われて始めました。
- ②怪我をせずにしっかりと大会に臨めるような選手になりたい。また、次回のデフリンピックやデフ日本選手権を目標に向かって頑張りたい。
- ③ー
- ④ゲーム・YouTube鑑賞 / 食べること、特にラーメンが好き / 「あきらめない」「継続は力なり」
- ⑤在学中に100mで10秒台のタイムを出すのが目標
- ⑥楽しいことも思い通りにならないこともありますが、仙台大にはいろんな経験をすることで人として成長できる環境があります。ぜひ一緒に頑張りたい!

デフリンピックとは、「デフ(Deaf)+オリンピック」の略で「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」のこと。国際ろう者スポーツ委員会(IICSD)の主催で4年毎に開催される国際スポーツ大会は、今年100周年を迎え日本初の「東京2025デフリンピック」が11月に開催される。

「東京2025デフリンピック」男子陸上競技日本代表内定記念特集

金メダリスト

佐々木琢磨選手が誰よりも速く走り続ける理由



11月開催の「東京2025デフリンピック」。ブラジル大会金メダリストの佐々木琢磨選手(本学職員)は、100m・200m・4×100mの3種目に出場する。彼の背中を追って本学で学ぶ4人の選手も出場を決め、本学初のチーム出場が注目の的となっている。



ささき たくま
佐々木 琢磨 選手
 青森県五戸町出身。盛岡聴覚支援学校高等部、仙台大学卒。現在仙台大学職員。妻と長男の3人暮らし。
 【主な戦績】
 2024世界陸上競技選手権大会 4×100mR 優勝 世界新
 2022デフリンピック ブラジル大会 100m 優勝

頑張る人を応援するために走る！

金メダリストとなり3年が経つ。「世界になる夢を叶えたことで、次の目標が見えなくなった時期がありました」と語る。その状況を打開できたのは、新入部員の存在だったという。大学時代ろう学校を訪問し指導した陸上選手が、佐々木選手に憧れて本学に入学してきたのだ。「それが長谷川翔大選手。いろんな壁を乗り越えながら陸上向き合ってきたのだなあと、かつての自分を見ているようでした。それ以降、皆頑張っている。自分も頑張る姿をしっかり見せたいと思うようになりました」。その後部員が増え、現在本学陸上競技部にはデフ陸上選手は6人在籍しており、名取英二部長の指導のもと、ともに練習を行う。「同じチームとなったことで、全体のレベルアップを実感しています。皆の表情も引き締まり、今は勝負師の顔に変わってきています」。そうした後輩たちの真摯な姿から刺激を受けた佐々木選手「頑張る人を応援するために走る」という使命感が新たなモチベーションとなった。

愛する家族のために世界新と三冠をめざす！

2022年に結婚、昨年10月に男の子を授かった。「いつもニコニコ笑ってくれるので、練習を終えて家に帰るのが楽しみです」。パパとなったことで、世

耳が聞こえなくても、幸せな人生を送るために

子どもの頃はプロ野球選手が夢だったという。しかし、友だちと会話ができず、次第に寂しさや心細さを感じるようになった。「皆が盛り上がりつつある時にその輪に入れない。野球は好きでも離れるしかないと思いました」。聞こえない苦しみ、ネガティブな思考、立ち止まる壁。それを変えてくれたのが陸上だった。「デフ陸上ならできることはあるはずと思いました」。さらにデフリンピックを知る。「デフリンピックはろう者のプライドを賭けた夢の舞台。自分の持てる力をすべて出し切る場だからこそ、トップに立ちたいと思いました」。そんな佐々木選手は東京デフリンピックの目標について「2連覇、世界新ですが、もう一つの目標は多くの人に知ってもらうこと。ろうの僕が走る姿を見て、耳が聞こえなくても幸せになる道はあると知ってもらいたい。東京大会で僕の存在を知って、検索して仙台大学に見学に来る、楽しそうと思って大学に入る、そうなら嬉しいですね」。多くの人の夢と希望を背負って、佐々木選手は東京デフリンピックに向けて走り出している。

佐々木選手へのインタビュー
 記事の続きはこちらから ▼



めざすは全日本学生団体2連覇! 「ノートテイク活動」で 新たな交流も

学生支援センターノートテイク活動

さかうえ せい か
坂上 聖奏さん

子ども運動教育学科3年・新体操競技部 鹿児島純心女子高校出身



**新体操のレベルアップをめざし
鹿児島から仙台大学へ**

坂上さんが体操を始めたのは4歳から。「ケガをしない身体にしよう」と両親が近くの体操教室に通わせてくれたのがきっかけです。小学3年からは選手コースに入り、大会で結果が出ると俄然楽しくなってきました。そこで、強豪校として名高い「鹿児島純心女子高校」の新体操部に入部。「熱心な先生で、先生と一緒に一つの演技に物語を考えたり、自分にあてはめてイメージしたりするうちに、自然と情感を

昨年、新体操競技部が「第76回全日本学生新体操選手権」で団体初優勝した快挙は記憶に新しい。当時2年生の坂上聖奏さんは、先輩たちの気迫のこもった演技を目に焼き付けていた。3年生になった今年はAチームメンバーとなり、連覇をめざしより一層練習に励んでいる。その傍ら、学内の聴覚障害がいの学生のための「ノートテイク活動」にも参加している。

**「ノートテイク」を通してできた
新たなつながり**

新体操に打ち込む一方、昨年からは新たに始めたのが「ノートテイク活動」だ。本学には7人の聴覚障害がいの学生が在籍する。

新体操の選手育成をめざす

「子ども運動教育学科」は、運動遊びを中心に子どもの発達に寄り添う幼児教育の担い手を育成する学科で、保育士や幼稚園教諭の免許が取得できる。「子どもたちに関わる上で必要な知識はどんどん増えています。同時に、創造性を高める授業もあり、絵画や工作の授業は自分で自由に作品を作れるので楽しかったです。そうした中で、将来の目標も少しずつ見えてきたという。「姉が地元（鹿児島）の体操クラブで新体操の指導をしているので、私も一緒に選手育成に携わりたい」となるかもしれません。その際は、子ども運動教育学科での学びが即役立つ。「新体操のルールや演技のトレンドなどは刻々と変わるのので、最新の情報に触れられる今の環境がありがたく、将来的にも心強いです」。

**学びを活かし、
新体操の選手育成をめざす**

「子ども運動教育学科」は、運動遊びを込めた演技ができるようになりました。そんな坂上さんの進学先として候補に挙がったのが、指導者同士交流のある本学だった。「4人の先輩が在学していた安心感もあり、首都圏の大学より少人数でできる細かい指導が受けられると言われたのが決め手となりました」。



そうした学生の隣で耳の聴こえる学生が2人1組で先生が話す講義の内容の要点をリアルタイムに手書きで文字化し伝える活動である。ハンデなく授業が受けられるよう学内の学生支援センターが運営し、有償ボランティアで学生が参加している。坂上さんは「ノートテイクに参加するようになり、初めて耳の聴こえない学生と交流するようになりました。少しずつ手話も教えてもらったり、スマホの文字で会話したり、自分の世界が広がった感じです」。

ノートテイクでできた新たなつながり。新体操団体2連覇をめざす坂上さんをノートテイクで出会った仲間たちも後押ししてくれるに違いない。

アスリートを支える役割に 充実感 卒業後は企業のプレイヤーを 支えたい!

就職内定先/株式会社セントラル警備保障

うじいえ り の
氏家 梨乃さん

スポーツ情報マスメディア学科4年・スポーツ情報サポート研究会 福島商業高校出身



**スポーツと情報に特化した
学科に魅力を感じて**

「授業ではメディアの取材を想定し、記事を書くトレーニングも行いましたが、映像の方が取り込める情報量があるかによく、映像の世界に魅力を感じました」と語る氏家さん。授業で学んだことを実践の

スポーツが大好きという氏家さん。高校時代はバレーボールのマネージャーを務め、選手を支える役割にやりがいを感じたという。もともと動画編集が趣味だったこともあり、選んだのが本学の「スポーツ情報マスメディア学科」。主に硬式野球部の試合に帯同し、懸命に白球を追う選手たちの姿を撮影する中で、スポーツの持つチカラをより強く感じるようになったという。

**硬式野球部の選手を取材した
ドキュメンタリーに挑戦**

現在4年生、大学生活の集大成となる年を迎えている。「卒業制作として、硬式野球部の選手を取材し30分のドキュメンタリー作品を撮る予定です」。2人体制で企画、構成、撮影、編集、ナレーションなどすべてを行う。ゴールは、10月のドラフト会議。「初めての大作ですが、楽しんで取り組みたい」と意欲を見せる。改めて大学生活を振り返ってみての感想は「メディアの最前線で活躍してこられた先生方の指導のもと、授業はもちろん、サポート研究会でもさまざまな体験ができる場面が多くありました。私のように選手経験がなくても、スポーツが好き、アスリートを後方支援してみたいという気持ちがあれば、スポーツ情報マスメディア学科はピッタリな学科だと思います」と語る。

場で活かそうと、「スポーツ情報サポート研究会」のメンバーにもなった。同研究会は、学内のクラブ活動においてスポーツアナリストとしての実践経験を積む「情報戦略活動」と取材・撮影・編集・情報発信を行う「マスメディア活動」があり、氏家さんが選んだのは、マスメディア活動。情報の収集・加工・分析・提供方法について実践を通じた学びを深めている。「私たちが制作した硬式野球部のリーグ戦のダイジェスト版がキャンパスの大型ビジョンで流れたりするので、目に見える形で自分の成長を実感できます」と充実感を語っている。



**1社受けた採用試験で
早期に内定を得る**

大学4年は将来を見据えて就職活動に邁進する時期だが、氏家さんはすでに今年3月に、(株)セントラル警備保障会社から内定を得ている。「学内の企業説明会があり、参加したところ、順調に採用試験に進み、3月に内定をいただきました」。

受けたのは1社のみという。「企業理念や将来性に加え、給与や社員寮などの福利厚生制度が整っていたことなどがポイントになりました」。希望する部署は人事部という。本学で映像を通してアスリートの支援を行ってきただけに、企業のプレイヤーを支える人事の業務は氏家さんにとって適職といえそうだ。

CAMPUS INFORMATION

キャンパスインフォメーション

学生の活躍やキャンパスでの多彩なトピックスをお届けします。

仙台大学スポーツ記録一冊に集約 半世紀超の歩みを自費出版し大学へ 寄贈／吉田清さん(事務職員)

本学のスポーツにおける半世紀以上の歩みをまとめた資料集『仙台大学の主なスポーツの記録』がこのほど完成し、3月17日(月)、学内で贈呈式が行われました。本資料は、長年にわたり本学事務職員として部室管理等に携わってきた吉田清さんが、定年退職を前に自費出版したものです。

資料集はA4判124ページに及ぶ大作で、1967年4月の開学から2025年1月までの記録を対象とし、硬式野球、漕艇、体操競技など約40の運動部の成績を体系的にまとめています。全日本大学選手権や世界大会での戦績、さらにプロ・社会人チームで活躍を続けた卒業生の紹介も含まれており、まさに仙台大学スポーツ史の集大成とも言える内容となっています。



南條副学長・スポーツ局長(左)とUNIVAS 池田専務理事

「UNIVASCUP2024-25」 で東北地区優勝・2年連続の栄冠、 学生アスリートの努力が実を結び、 学生アスリートの総合力No.1を 競う競技横断型大学対抗戦で、年間を通じてポイント制で順位を決定する全国大会です。

本学は、硬式野球部、漕艇部、柔道部をはじめとした各クラブが好成績を収め、総合得点で東北エリアトップとなりました。5月23日には、UNIVASの池田

この取り組みは、2017年の開学50周年を機に、朴澤泰治理事長から「運動部の過去の記録を二つにまとめてほしい」と依頼を受けたことを契機に始まりました。以降、学内外の資料や競技団体のホームページ等を丁寧に調査・整理し、年月をかけて記録の充実を図ってきました。贈呈式では、朴澤理事長より感謝状が贈られました。吉田さんは「これまでは学生や関係者が過去の成績を知るすべがなかった。今後、誰もが自由に閲覧できる仕組みができればうれしい」と語り、スポーツに情熱を注いできた本学の歴史が後輩たちに誇りとして受け継がれることを願いました。



感謝状を手にする吉田さん(中央)、左は高橋仁学長、右は朴澤理事長

本資料は、本学図書館及び学内関係部署に所蔵されており、学生・教職員はもとより、卒業生や関係者にとっても、貴重な資料です。

今回の成果は、日々研鑽を積む学生アスリートの努力が結実したものです。本学は、今後も学生の競技力のみならず、学修や研究を支援し、大学スポーツのさらなる発展に貢献してまいります。

「UNIVASSSC」認証を取得 大学スポーツの先進モデルとして認定

本学はこの度、大学スポーツ協会(UNIVASS)が認定する「UNIVASSSC」に、東北エリアの大学として初めて認証されました。UNIVASSSCは、部活動中の事故発生リスクの洗い出しや、万一事故が発生した際の体制整備、コンプライアンス体制などを13項目にわたる基準を達成している大学に与えられる制度で、認証を得ることを通じて大学による主体的な安全・安心環境の整備が推進されることが証明されます。

本学では、これまでもスポーツと学業の両立支援体制をはじめ、地域連携活動やキャリア教育の充実、スポーツガバナンスの確立など、幅広い取り組みを推進しており、今回の認証はそれらの実績が高く評価されたものです。今後も本学は、大学スポーツの中核的な存在として、学生の可能性を引き出す環境づくりを進めてまいります。

参考資料として広く活用されることが期待されます。吉田さんの長年にわたるご尽力に、心より感謝申し上げます。

「大学・高専機能強化支援事業」に選定

本学は、大学改革支援・学位授与機構による令和7年度「大学・高専機能強化支援事業(支援I)」に選定されました。本事業は、特に、デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、学部再編等を通じて特定成長分野への改革を支援するものです。支援事業への申請にあたっては、現行のスポーツ情報メディア学科を改組し、「スポーツ情報学科(仮称)」を令和10年度に新設する計画となっています。なお、設置計画は予定であり、内容は



学食定食が100円に！ 物価高騰を受けた学生支援策を実施

本学はこの度、物価の上昇に伴い学生の食費負担が増している現状を受け、学生への支援策として「学食定食100円デー」を実施しています。通常450円で提供されている定食メニューを、100円で学生に提供する取り組みで、この企画は、学生たちの生活を支援したいという保護者会からの支援によって実現したものです。本学に在籍するすべての学生を対象としており、毎回開始前から長蛇の行列ができるほどの盛況で、多くの学生がこの機会を活用しています。学生から好評を博しているこの企画はこれまでに6回(6月17日現在)実施されており、今後も継続的に実施される予定です。



100円定食に笑顔を見せる学生

変更になる場合があります。今後の情報は、本学ホームページ等でご案内してまいります。

数理・データサイエンス・AI教育 プログラム「応用基礎レベル」に応募 高度化でDX人材育成をさらに加速

本学は、文部科学省が推進する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」において、この度「応用基礎レベル」の応募を行いました。本学はすでに令和2年度に「リテラシーレベル」の認定を受けており、今回の応募が認められた場合(認定結果は8月9月に通知予定)、データサイエンスとAIを活用できる高度な実践力を備えた人材の育成体制が一層強化されることとなります。

本学が展開する「DX人材育成プログラム」では、情報処理や教養数学といった基礎科目に加え、「データサイエンスI」「II」や「スポーツ計量学」「データ処理の基礎」などを体系的に学修。数理的思考力やデータ分析力を備え、社会課題の解決に貢献できる人材を育てます。特にスポーツ分野とデジタル技術の融合を軸に、実践的かつ専門的な教育を展開しています。

Society 5.0やDX社会に 対応する次世代の人材を輩出するべく、本 学は今後も教育内容とカリキュラムの充 実を図り、地域や産業界と連携した先 進的な教育を推進してまいります。

大学日本一！ 女子硬式野球部が快挙

高知県・安芸市営球場で5月に開催された「第11回 全日本大学女子硬式野球選手権大会」で、女子硬式野球部創部3年目にして悲願の初優勝を達成しました。

女子硬式野球部は2022年に創部し、当時の部員は3人。「まずは全国で1勝」を目標に掲げてスタートしたチームですが、目まぐるしい成長を遂げ3年目にして日本一の座に輝きました。

部員の中からは日本代表候補に選出される選手やマネージャーもおり、今後は国内での活躍はもとより、世界を舞台にした戦いが始まろうとしています。



初優勝の喜びをVサインで表現する女子硬式野球部の選手たち

竹刀と教科書、 二つを手に未来へ — 剣道が導いた教職の道

しぶや ともき さん

現代武道学科4年・剣道部
福島・白河高校出身

2004年福島県生まれ。趣味/サウナ 推し/フルーツジッパーのルナビ 好きな食べ物/ラーメン(最近みそにはまっている) 現在の目標/7月に開催される全国大会(インカレ)に出場すること



小学生の頃から剣道に打ち込み、大学では保健体育の教員を目指して学業と競技の両立に励んできた。病気で剣道を断念した父への想いを胸に、全国の舞台を目指して努力を重ねる日々。現在は教員採用試験に向けて勉強に励み、将来は教壇に立つだけでなく、剣道の指導や普及にも貢献したいと語る。

入学後は「文武両道」を貫こうと決意。学業と稽古の両立に励みながら、実力のある先輩や同期に追いつくため、必死に竹刀を握り続けた。その原動力の一つが、病気で剣道を断念した父の存在だった。「父に、自分が全国大会の舞台に立つ姿を見せたい」。その一心で努力を重ねてきた。剣道部への入部に際しては、高校の監督が仙台大学の剣道部監督に連絡を取ってくれたことも、背中を押してくれた要因だ。

一方で、どれだけ稽古に励んでも、ふと「もっと真剣に取り組めたのではないか」と悔しさが残る瞬間もあったという。それでも、「背伸びせず、自分の能力に見合った努力

剣道に打ち込んだ大学生活、 父への想い

小学校1年生のとき、父と兄の影響で剣道をはじめた。3つ上と5つ上の兄たちが竹刀を握る姿を追いかけるように、自然と道場へ足を運ぶようになった。現在は剣道四段。高校3年生の夏、福島県大会で準決勝に進出するも、惜しくも敗退。全国大会への切符をあと一歩で逃し、悔しさを胸に刻んだ。それでも剣道への情熱は消えることはなかった。大学でも競技を続けること、そして保健体育の教員になるという二つの目標を持ち、進学先を探る中で、教育実習に来ていた仙台大学の学生の話を聞いた。「仙台大学」という名前を初めて知り、調べてみると、自分の夢にぴったりの環境がそこにあった。剣道が続けられ、教員を目指せる——それが進学の決め手になった。

剣道との出会いと、 全国への想い

大学と高校までのバドミントン部での活動における最大の違いは、「自分で考え、自分を変えていく姿勢」の必要性に決定的な変化があった。

自ら動いて、変えていく — キャプテンとしての成長

バドミントン部で競技に全力を尽くす一方、学部の栄養サポート研究会に所属し、体操競技部の栄養支援にも携わった。全国大会に帯同するなど、アスリートと栄養の現場に深く関わった経験は、「栄養への関心をより一層深めるきっかけとなった。活動を通じて、選手からの「いつもありがとう」「おいしかった」の反応にやりがいを感じた。人を笑顔にできる「食」の力に触れ、「食で人を喜ばせることは、自分に向いている」と実感するようになった。「自分自身もアスリートだからこそ、選手の気持ちに寄り添える」。そう語る彼女にとって、実践を通して得た学びは、将来の方向性を決定づける大きな財産となった。

教員への道とこれからの目標

両親ともに教員であり、自身も中学・高校時代に素晴らしい先生方と出会えたことが、教職を志す強い動機となった。大学4年次には母校・白河高校で教育実習を行い、5月下旬から数週間にわたり現場を経験。「教えること」の難しさとやりがいを肌で感じながらも、実習は順調に終えた。

現在は7月に行われる福島県の教員採用試験に向けて、1日4時間以上の勉強を欠かさず続けている。模擬試験で弱点を見つけては克服に努め、同じく教職を目指す仲間と意見を交わしながら、着実に準備を進めている。

「教員になれば、これまで出会ってきた先生方のように、一人一人に寄り添える存在でありたい。厳しさと優しさの両方を持った先生になりたい」。そう語る眼差しには、剣道で培ったまっすぐな意志がにじんでいた。

将来的には、教壇に立つだけでなく、剣道の指導や普及にも力を注ぎたいと話す。これまで支えてくれた家族や先生方への感謝を胸に、自らが道を示す指導者への一歩を、今まさに踏み出そうとしている。



バドミントンと 栄養士の学びが導いた夢 — 「おいしい!」を姉妹で届けたい

さいとう あずさ さん

スポーツ栄養学科4年・バドミントン部キャプテン
山形・山形城北高校(現:東北文教大学山形城北高校)出身

2003年山形県生まれ。趣味/刺繍(自分で刺しゅうを施したトレーナーを祖母にプレゼントして喜ばれた) 推し/三代目 J SOUL BROTHERSの岩田剛典 好きな食べ物/ブロッコリー(マヨ醤油で食べるのが特に好き) 好きな言葉/為せば成る為さねば成らぬ 何事も 現在の目標/インカレでの1勝



祖母にプレゼントした
トレーナーの刺繍



小学生の頃から続けてきたバドミントンと、栄養士資格への興味。その2つを叶えられる環境を求めて選んだ大学での学びと経験は、「おいしい!」を届けたいという新たな夢へとつながっていきました。競技と学業、そして栄養サポート活動の両立を通じて深まった「食」への想い。やがてその夢は、双子の妹とともにお店を開くという未来のビジョンへ——。スポーツと栄養が導いた、彼女の物語を紹介します。

「好き」を軸に選んだ 進学先での気づき

小学生の頃から打ち込んできたバドミントンと、栄養士資格が取得できるという2つの「やりたいこと」が叶う大学——それが仙台大学だった。入学当初は明確な将来像があったわけではなく、「栄養士資格を活かした仕事があればいい」という漠然とした想いを抱いていた。

しかし、大学生活の中で多くの経験を積むうちに、「おいしいものを届ける仕事が見たい」という想いが芽生えてきた。

バドミントン部で競技に全力を尽くす一方で、学部の栄養サポート研究会に所属し、体操競技部の栄養支援にも携わった。全国大会に帯同するなど、アスリートと栄養の現場に深く関わった経験は、「栄養への関心をより一層深めるきっかけとなった。活動を通じて、選手からの「いつもありがとう」「おいしかった」の反応にやりがいを感じた。人を笑顔にできる「食」の力に触れ、「食で人を喜ばせることは、自分に向いている」と実感するようになった。「自分自身もアスリートだからこそ、選手の気持ちに寄り添える」。そう語る彼女にとって、実践を通して得た学びは、将来の方向性を決定づける大きな財産となった。

未来の夢は「姉妹でお店を」 —食を通じた地域貢献へ—

プロバスケットボールチーム・仙台89ERSの栄養サポートにも関わり、スポーツと食の新たな接点を体感した。そして、就職活動を進める中で、「いつか双子の妹と一緒に、おいしいものを届けるお店を出したい」という夢が芽生えた。

実家は建設重機を取り扱う会社を営んでいるが、家業の将来的な方向性について「食」の分野への転換も視野に入れ、姉妹で「勝手に構想を語り合っている」という。「おいしいものを届けることが、人を笑顔にする。それを仕事にしたい」と語るその瞳の奥には、確かな覚悟と希望が宿っていた。

将来的には、食育などの啓発活動も含め、多くの人々に「食の大切さ」を伝えていきたい。バドミントンで培った粘り強さと、栄養学で身につけた専門性を活かして、彼女の挑戦はこれからも続いていく。

令和7年度 同窓会「社員総会」すべての議案承認

本年度の「社員総会」は、令和7年6月7日(土)、船岡駅前ホテル原田inさくらを会場に開催され、すべての議案が承認されました。

「社員総会」次第

- 一 開会
- 二 開会の挨拶 会長代表理事 石上 幸弘
- 三 定数報告 全社員数31(過半数16)
- 四 委員出席者数8 欠席1 計31
- 五 議事録作成人及び議事録署名名人
- 六 議事
 - 第1号議案 令和6年度事業報告
 - 第2号議案 令和6年度収支決算報告並びに監査報告
 - 第3号議案 令和7年度年間事業計画案
 - 第4号議案 令和7年度収支予算案(案)
 - 第5号議案 定款変更(案)
 - 第6号議案 令和7年度同窓会役員人事案
 - 議長解任
 - その他
- 七 議長選出
- 八 その他
- 九 閉会の挨拶 同窓会副会長理事 靄田 雅之

役員人事では、同窓会の組織ガバナンス強化として、理事1名、監事1名の増員が承認され、新理事に仙台大学職員の第41期生伊勢裕介氏、新監事に仙台大学職員の第29期生加藤琢磨氏に就任頂き、同窓会新体制は理事6名、監事2名体制となりました。また、明確な組織構築のため、現行の理事全員を副会長とせず、会長1名、副会長1名の体制とした。会長は引き続き第12期生石上幸弘氏、副会長は第10期生靄田雅之氏に、事務局は第12期生佐藤一拡氏が継続となりました。

当日は、総会に先立ち14時から社員総会会場にて東北・北海道支部長会議に15名が参加し開催され、仙台大学から学生募集関係のプレゼンがありました。同窓会としての支援のあり方について検討されました。午後3時から社員総会。今回は、オブザーバー参加として帯広支部、宮城県支部一本化の宮城支部設立の役員候補の皆様に出席いただき、宮城支部役員候補を代表して、前石巻支部長第2期生千葉純氏から今後の設立スケジュールについて報告がありました。



社員総会出席者一全国各地から支部長が集いましたー



東北・北海道支部長会議

社員総会後には、新設部として、同窓会からの支援3年目となる女子硬式野球部員30名が集まり、同窓会からの活動支援の御礼併せて、5月に四国で開催された全日本女子大学野球選手権大会での悲願の優勝報告がありました。主将の真弓心さんは全ては多くの方々からの支援があったからと支援の有り難さを強く語りました。真弓心さんは、現在ある同窓会シンボルマークの原案作成者です。会場の参加者から、温かい拍手が続きました。午後5時から仙台大学朴澤泰治理事長、高橋仁学長、女子硬式野球部重東部長、福田副部長、入澤監督にご出席頂き懇親会が開催されました。

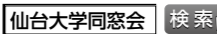
懇親会では、今年度、新設の宮城支部の8名の役員候補の皆様にご挨拶頂きました。仙台大学の地元宮城県の支部一本化に大きな期待が寄せられました。

令和7年度一般社団法人仙台大学同窓会役員名簿

R7.6 現在※()内数字は卒業期

相談役	松下 邦雄(1)		
会長(代表理事)	石上 幸弘(2)		
理事	靄田 雅之(副会長・10)	江尻 雅彦(10)	
	丹 孝平(10)	石森 靖明(37)	伊勢 裕介(41)
支部(社員)			
北海道央支部	吉田 岳夫(15)	栃木支部	矢口 通夫(15)
空知支部	渡辺 禎(19)	群馬支部	板橋 光孝(20)
	支部長代行	埼玉支部	舛田 純一(9)
根室釧路支部	外山 浩司(7)	千葉支部	高見 史郎(4)
帯広支部	松橋 宏泰(11)	東京支部	高島 勝(11)
オホーツク支部	秋山 拓朗(8)	神奈川支部	濱中 信男(9)
函館支部	伊與田 渉(2)	静岡支部	大竹 利治(18)
旭川支部	加藤 睦(13)	愛知支部	浅野 廣海(19)
青森支部	小沼 卓志(20)	岐阜支部	西本 誠(7)
岩手支部	高橋 敏彦(9)	三重支部	鹿島 文雄(13)
秋田支部	柴田 邦宏(11)	大阪支部	平野 真(19)
山形支部	寺嶋 宏武(15)	兵庫支部	久保 俊輔(38)
宮城支部	千葉 純(2)	広島支部	渡辺 直樹(16)
福島支部	山縣 栄寿(12)	四国支部	大西 伸尚(17)
新潟支部	小林 直樹(10)	九州支部	國武 史照(10)
富山支部	片山 伸二(7)	沖縄支部	真玉橋克彦(21)
長野支部	青木 隆幸(9)	※休会 茨城支部	
〈監 事〉	木村 正人(24)	加藤 琢磨(29)	
〈事務局長〉	佐藤 一拡(12)		

同窓会に関するお問合せは下記事務局へ
 〈問合せ・連絡先〉
 仙台大学同窓会事務局(仙台大学内)
 〒989-1693 柴田郡柴田町船岡南2丁目2-18
 TEL・FAX(直通) 0224-55-1449
 事務局長 佐藤一拡(12期生)
 E-mail kz-sato@sendai-u.ac.jp
 氏名・住所変更
 E-mail suaa-kanri@sendai-u.ac.jp



全日本女子大学野球選手権大会 優勝報告

第1期生 喜寿祝同期会を開催します。

現在「同窓会事業として」還暦同期会を開催しています。また、先日第8期生の皆様が「古希同期会」を開催しました。開催後の報告の中から、喜寿を迎える第1期生の皆様の話題となり、第1期生松下雄相氏とご相談し、標記「喜寿祝同期会」を先通し開催する準備を進めて参ります。今後、第1期生の皆様にご案内申し上げますので、是非ご出席賜りますようお願いいたします。

日時 令和7年11月1日(日)午後3時より
 仙台大学内見学 午後5時より懇親会
 会場 東北本線船岡駅前 ホテル原田inさくら

今後の支部総会等スケジュール

令和7年11月1日(土) 第1期生「喜寿祝同期会」・船岡
 令和7年11月15日(土) 沖繩支部総会
 令和7年11月15日(土) 埼玉支部総会
 令和7年11月22日(土) 第16期生「還暦同期会」・船岡
 令和7年11月29日(土) 福島支部総会・郡山市
 令和7年12月6日(土) 北海道内支部長会議・札幌市
 令和7年12月6日(土) 道央支部総会・札幌市
 令和7年12月6日(土) 道央支部総会・札幌市
 今後の支部総会等日程の重ならないようご計画ください。日程等が決まりましたら、同窓会事務局までお知らせください。

研究室より

社会福祉学研究室

東北の大学初「スポーツチャンバラ部」創部
 社会福祉士国家試験新卒受験者7人全員合格を達成

南條 正人 准教授 専門領域/社会福祉学・レクリエーション

かつて子どもたちが棒や新聞を剣に見立てて楽しんだ「チャンバラごっこ」が、今やエアースト剣を使った安全で誰もが楽しめる競技「スポーツチャンバラ(スポチャン)」として全国的に普及している。この度、東北の大学で初めて、本学に「スポーツチャンバラ部」が創部され、健康福祉学科の南條正人准教授が監督に就任した。さらに同学科では、令和7年2月に実施された第37回社会福祉士国家試験において、新卒受験者7人全員が合格(全国合格率56.3%)という成果を上げた。南條准教授を中心とする教員チームの手厚い指導と、学生たちの努力の成果である。



- ◆資格・免許/社会福祉士、福祉レクリエーション・ワーカー、レクリエーション・コーディネーター、キャンプディレクター1級
- ◆論文/認知症グループホームにおける利用者の看取りの意思決定とスタッフの支援内容の比較と在宅看取り移行事例への支援(共著)ほか
- ◆講演/公開講座「障がい者に対する差別・偏見」
- ◆社会活動/白石市スクールソーシャルワーカーほか

「観察力」を備えた
 社会福祉の担い手を育成

南條先生は社会福祉士およびレクリエーションの資格取得に関連する科目を担当している。「社会福祉士」とは、専門的な知識と技能を持ち、ソーシャルワーカー(相談員)として日常生活を営む上で困難を抱える人の福祉に関する相談に応じ、助言や指導、援助を行うための社会福祉専門職の国家資格。「社会福祉協議会、地域包括支援センター、病院、学校、児童・障がい者・高齢者福祉施設などさまざまな活躍の場があり、社会福祉士が地域社会に貢献しつつやりがいのある仕事である。ことをもっと知ってもらいたいです」。また、「社会福祉士に必要なのは「観察力」と語る。「社会福祉士は、悩みや不安を取り除くための環境を整える支援を行うのが



役割。ちょっとした変化に気付く、困っている人がいたら自然に手を差し伸べるとか、専門職だからではなく、人として身近な家族や友だちに対してもそうした気付きや行動ができることが大事です」。こうした価値観を大切にしながら、専門性を高める教育にも力を注いでいる。

令和7年2月に実施された第37回社会福祉士国家試験では、健康福祉学科の新卒受験者7人全員が合格(全国合格率56.3%)という成果を上げた。

これは、南條准教授ら教員チームの丁寧な指導と、学生たちの地道な努力の結果である。

アクティブ、フットワークのよさが持ち味

南條先生の原点ともいえるのが、高校時代の「ジュニアリーダー」の経験である。子ども会活動を中心に地域活動を行う青少年ボランティアのことで、大人と子どもパイプ役となり、キャンプやレクリエーションなどで技術指導を行う。ボランティア精神や子どもとの接し方、レクリエーションやキャンプのスキルなどすべてが現在の南條先生の活動につながっている。加えて、南條先生はフットワークが軽く、本学の軟式野球部、スラックライン部の副部長を務め、練習にも参加し、実際にプレーもする律義さである。このほか、オフの日は釣りか畑仕事に出ているのだとか。「妻と20種類ほど野菜を作っていて、3人の子ど



もたちも手伝ってくれるので収穫が一番楽しいですね。将来は米も作って、自給自足が目標です」と顔をほころばせる。

スポチャンと社会福祉の融合をめざして

昨年、東北の大学で初めてのスポーツチャンバラ同好会(仙台大学スポーツチャンバラ剣和会)を中心となり立ち上げた。部員募集を兼ねた体験会なども開催したほか、早くも全国大会の個人戦(新人部門)で優勝し、ポテンシャルの高さを見せつけた。今年は部に昇格し、全国大会の団体戦で上位入賞をめざす。「スポーツチャンバラは、あらゆる世代・層が親しみやすいという特性があり、福祉やレクリエーションとの親和性からさまざまな場面で効果を発揮できる可能性があります。全国的にも人気なので、東北では本学を中心に盛り上げていきたいですね」。ジュニアリーダーの時と同様に何事にもまっすぐ全力で取り組む南條先生の姿が、社会福祉士をめざす学生たちのロールモデルとなっている。

コラム

ストロングス&コンディショニングコーチ — コーチである専門職と教育の両立を成功させることは並大抵のことではない。志を共有する仙台大学の仲間がいるから頑張れます



信州スポーツ医療福祉専門学校 学校長 兼
スポーツトレーナー学科学科長
NSCAジャパン認定試験・CEU委員会委員、
NSCAジャパン甲信越地域アシスタントディレクター

いしかわ ゆうすけ
石川 祐佑さん

平成18年度 体育学部 体育学科 卒業
平成20年度 仙台大学大学院 スポーツ科学
研究科 修士課程 修了

た。特にフィジカル強化に関して言えば、高校生時代はウエイトトレーニングに励んでいました。

大学受験を意識しだす前から、体育大学に漠然とした憧れがありました。基本的に負けず嫌いでした。当時、進学に迷いはありましたが、仙台大学は自分の実力を試すのには、本当に良い環境だと思いました。無事に体育学科に合格して、トレーニング科学に関心と得意意識があったため、硬式野球部ではトレーナーとしての役割を担い、大学3年の中頃には修士課程への進学を考えるようになっていました。

振り返ると学生生活はとても楽しく、硬式野球部時代の同級生、先輩、後輩そして印象に残っているのは、大学1年の時に知り合いとなった友達。その友達とは、今でも年に1回会っています。そんな気心の知れた長い付き合いになる友達と知り合えたことも大きな財産となっています。「あいつが頑張っているからオレも頑張る」という相乗効果もあって、恵まれていてと感じます。後生の育成にはコーチとしての経験値を教育現場に還元する。

トレニングエクササイズを専門的に指

導する「ストロングス&コンディショニングコーチ」と「教員」が私の仕事です。傷害リスクの低減と競技力向上を目的にトレーニングエクササイズをプログラムし、スポーツ選手に処方していきます。計画通りにトレーニング効果が現れるよう、代替案も考えながら計画全体が滞ることなく進むよう選手やチームと連携します。自分で言うのも恥ずかしいですが、トレーニングやりハビリで苦勞した選手が活躍すると、涙が出るほど感動しますね。こういった現場で得られた自身の経験を、将来トレーナーを目指す学生らに還元し同じ感動を共有しています。

仙台大学に在籍されている学生の皆さんへ
自分が大好きなことや興味があること、得意だと思ふことを見つけ、成長させてください。不得意だと思ふことに注視するのはなく、夢中になれるものを早く見つけてみてください。そうする中で自分が本当にやりたいことが見つけ出された時に、人生が輝き始めます。

仙台大学は「成長」できる場所だと実感を持ってそう考えています。そんな仙台大学には良い思い出ばかりで感謝しております。学生の皆さん、共に頑張りましょう。

導する「ストロングス&コンディショニング

仙台大学同窓会の日本酒

スペイン酒類国際コンクール「CINVE2022」金賞受賞
国際日本酒コンクール「Oriental Sake Awards 2022」銀賞受賞/香港

本学の学生と蔵人により醸しだされた純米大吟醸です。味わいは酵母由来の香りを控えめにし、造り手のこだわりを感じ取れるように仕上げた究極の食中酒です。皆さんの過ごした青春時代を思い出しながら、あるいは親しい方と過ごした仙台大学を感じながら、また語らいながら、味わっていただきたいと思ひます。



使用米：宮城県産ひとめぼれ100%
精米歩合：50% アルコール分：16度
酵母：宮城酵母
酒質：日本酒度/＋4酸度/1.6アミノ酸/0.1
保存方法：-5度～5度の冷蔵管理
価格：1800ml・販売価格(税込)：2,959円
500ml・販売価格(税込)：998円

〈購入について〉

以下の販売店様にご注文下さい。
丸正酒店(宮城県角田市角字町177)
TEL 0224-62-2002 FAX 0224-62-0625

仙台大学同窓会オリジナルグッズ

ポロシャツ、バスタオル、フェイスタオル、ボールペン、ステッカーが新たなデザインで登場! 売り上げの収益は全て学生の活動支援に活用されます。

ポロシャツ サイズ/S・M・L・LL	2,500円
フェイスタオル サイズ/H33×W86cm	1,000円
バスタオル サイズ/H70×W140cm	3,000円
多機能ボールペン 仕様/黒・赤・シャープペン	1,500円
同窓会ロゴステッカー	600円
詰め合せセット ポロシャツ・フェイスタオル・バスタオル・多機能ボールペン・ステッカー	8,000円

【お申込み方法】

右のQRコードから注文書をダウンロードし、必要事項をご記入の上、FAX又はEメールでお申し込みください。電話でのお申込みも可能です。



〈お申込み・お問い合わせ〉

一般社団法人仙台大学同窓会
TEL・FAX (兼用) 0224-55-1449
Email kz-sato@sendai-u.ac.jp

■お問い合わせ内容と主な関連部署

入試(学内見学)関係	入試課	0224-55-1017
求人、就職指導関係	就職課	0224-55-1017
学生生活関係	学生生活課	0224-55-3019
奨学金関係	奨学金事務課	0224-55-1038
成績、各種証明書発行関係	教育企画課	0224-55-1086
資格取得の支援関係	資格支援課	0224-55-1307
大学院(入試含む)関係	大学院事務課	0224-55-5706
同窓会関係	同窓会事務局	0224-55-1449

仙台大学(代表)

〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南2丁目2-18

TEL 0224-55-1121/FAX 0224-57-2769

受付時間:平日 8:30~17:15(受付時間外は留守番電話に切り替わります)



仙台大学は2025年3月13日付で「公益財団法人日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合している」と認定されました。

今後も、仙台大学のトピックスや在学生・卒業生の活躍を皆様にお伝えすべくより良い紙面づくりのため、皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。アンケートにご協力をお願いいたします。

アンケートはこちら



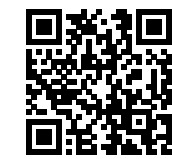
仙台大学HP



在学生以外の住所変更はこちら
※在学生の住所変更は学生生活課にお問い合わせください。



Instagram



X (Twitter)



Facebook